

## 次期「すまいるオアシスプラン 2027」策定について

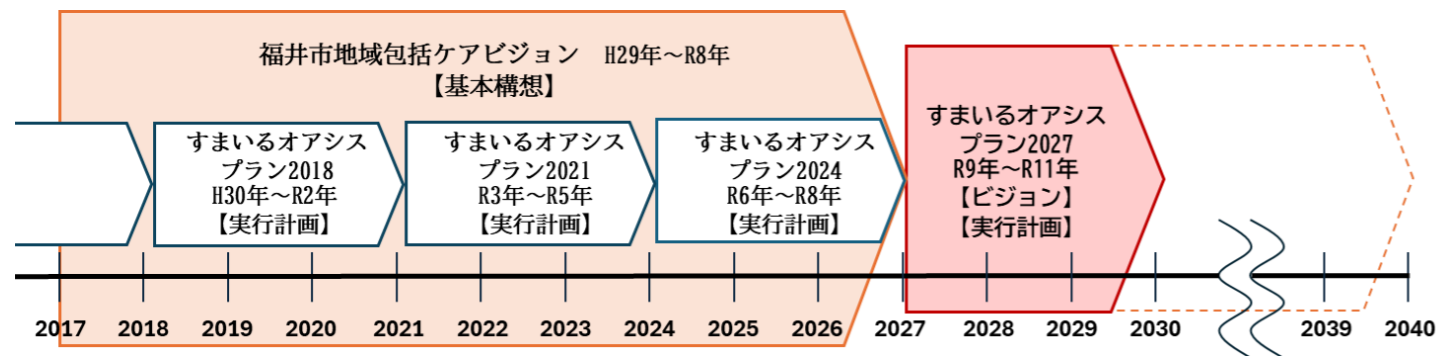
### 1 計画の概要

計画名	期	法令根拠	計画の内容
老人保健福祉計画	第11次	老人福祉法	老人福祉事業の実施に必要な事項に加えて、高齢者の健康の増進、疾病の予防といった保健事業に関すること
介護保険事業計画	第10期	介護保険法	介護サービス見込み量や介護保険事業を円滑に実施するために必要な事項など
高齢者居住安定確保計画	第3期	高齢者住まい法	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる住まいの実現に必要な事項など
(新)認知症施策推進計画	第1期	認知症基本法	「新しい認知症観」に立った理解の増進や、本人や家族の声を起点とした施策立案等、認知症とともに生きる地域のあるべき姿を実現するために必要な事項など

2 計画期間 令和9年(2027年)4月1日から令和12年(2030年)3月31日までの3年間

### 3 計画の位置付け

- ・2025年での地域包括ケアシステムの構築を目指し、本市の高齢者施策の基本構想である「福井市地域包括ケアビジョン(H29～R8)」を平成28年12月に策定
- ・「すまいるオアシスプラン」は、地域包括ケアビジョンの実行計画という位置付け
- ・今後は、65歳以上の高齢者数がピークを迎え、一層の高齢化の進行が見込まれる2040年に向け、さらなる地域包括システムの深化、推進が必要
- ・次期「すまいるオアシスプラン2027」は、2040年を見据えたビジョンをすまいるオアシスプラン内に織り込んだ計画とする。



### 4 次期計画に向けた各種調査結果(速報値)

#### (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 [参考資料1 調査速報](#)参照

- <調査目的> 要介護状態になるリスクの発生状況やそのリスクに影響を与える日常生活の状況等を調査・把握し、日常生活圏域ごとに地域が抱える課題の特定に繋げる。介護予防・日常生活支援総合事業の評価に活用する。
- <調査対象> 市内に在住する65才以上の男女4,000人(要介護者を除く)
- <抽出方法> 令和7年11月30日現在の住民基本台帳から無作為抽出
- <調査方法> 郵便送付(郵送またはインターネット回答)
- <調査期間> 令和7年12月2日～12月23日
- <回収結果> 回収数(率)2,501件(62.5%)

#### (2) 在宅介護実態調査(3年毎) [参考資料2 調査速報](#)参照

- <調査目的> 「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方等を検討するための基礎資料とする。
- <調査対象> 更新・区分変更の認定調査を行う要介護・要支援認定者500人
- <調査方法> 認定調査員による聞き取り調査
- <調査期間> 令和7年10月15日～令和8年2月27日
- <回収結果> 回収数(率)500件(100%)

#### (3) 【新規】居所変更実態調査 [参考資料3 調査報告書](#)参照

- <調査目的> 施設・居住系サービスの居所の変更人数や理由等の実態を把握し、住み慣れた住まいで暮らし続けるために必要な体制や機能を検討するための基礎資料とする。
- <調査対象> 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、グループホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅 126施設
- <調査方法> メール送付(メール回答)
- <調査期間> 令和7年12月22日～令和8年1月26日
- <回収結果> 回収数(率)91件(72.2%)

### 5 市民・関係者からの意見 [参考資料4 これまでの主な意見](#)参照

- ・集いの場や関係者等からの意見  
よろず茶屋や自主グループ等の通いの場や介護者のつどい、オレンジカフェなど、高齢者や認知症の人、その家族、関係者等が集まる場に出向いて意見や声を聴取  
<件数> 359人から128件(うち認知症のある人・家族等の声:96人)
- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の自由意見  
<件数> 318人から322件

## すまいるオアシスプラン 2024 の進捗状況

## 在宅医療・介護連携

### (現在の地域包括ケアビジョン)

2025年 将来ビジョン (目指す将来像)	入退院時には多職種間の円滑な情報共有により切れ目のないケアが提供できている。 在宅での暮らしを望む医療的ニーズのある高齢者が、安心して療養生活が送れるよう、 専門多職種によるサービス提供体制が構築され、本人の希望に沿った在宅療養生活を選 択し、送ることができる。
-----------------------------	--

### (すまいるオアシスプラン2024)

#### 基本目標1 在宅医療の充実と在宅医療・介護連携の強化

- 施策の方向
- 適切な在宅医療・介護サービスの提供と多職種間の連携の推進  
(重点項目)・多職種間の連携の推進
  - 在宅療養等に関する普及啓発

<b>成果 指標</b>	① 入退院時に医療と介護の連携を行っている人数																																		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>基準 R4</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 実績</th> <th>R7 実績</th> <th>目標 R8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2,910人</td> <td style="text-align: center;">3,102人</td> <td style="text-align: center;">3,236人</td> <td style="text-align: center;">2,365人 (12月末)</td> <td style="text-align: center;">3,500人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・居宅介護支援介護報酬の入院時情報連携加算及び退院・退所加算の算定人数</p>	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8	2,910人	3,102人	3,236人	2,365人 (12月末)	3,500人																								
基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8																															
2,910人	3,102人	3,236人	2,365人 (12月末)	3,500人																															
<b>主な 取組</b>	② 「在宅での療養に不安を感じる」と答えた割合																																		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>基準 R4</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 実績</th> <th>R7 実績</th> <th>目標 R8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">55.4%</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">38.4%</td> <td style="text-align: center;">45.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</p>	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8	55.4%	-	-	38.4%	45.0%																								
基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8																															
55.4%	-	-	38.4%	45.0%																															
<b>主な 取組</b>	・「ACP」「言語聴覚士との連携」「特定疾患における連携」をテーマに各圏域で会議を開催																																		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>医療介護連携ケア会議</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催数(回)</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">11</td> </tr> </tbody> </table> <p>・8職種(医師、歯科医師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、訪問看護師)で、各圏域に連携窓口を設置し、地域包括支援センターへ共有</p> <p>・「消防救急との連携」をテーマに介護支援専門員と多職種との合同研修を開催</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>在宅医療サポート研修会</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加数(人)</td> <td style="text-align: center;">67</td> <td style="text-align: center;">67</td> <td style="text-align: center;">67</td> <td style="text-align: center;">67</td> </tr> </tbody> </table> <p>・人生会議(ACP)やエンディングノートの活用等についての在宅ケア講習会を実施</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>在宅ケア講習会</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催数(回)</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">8(2月末)</td> </tr> <tr> <td>参加数(人)</td> <td style="text-align: center;">81</td> <td style="text-align: center;">258</td> <td style="text-align: center;">247</td> <td style="text-align: center;">262(2月末)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・「終活支援プロジェクト事業」として、身寄りがない高齢者が住み慣れた地域で安心して望む最期を迎えることができるよう終活意見交換会や終活普及啓発イベント等を開催 終活意見交換会：3回開催、約50人参加 終活普及啓発イベント：約250人来場</p>	医療介護連携ケア会議	R4	R5	R6	R7	開催数(回)	12	11	8	11	在宅医療サポート研修会	R4	R5	R6	R7	参加数(人)	67	67	67	67	在宅ケア講習会	R4	R5	R6	R7	開催数(回)	5	8	9	8(2月末)	参加数(人)	81	258	247
医療介護連携ケア会議	R4	R5	R6	R7																															
開催数(回)	12	11	8	11																															
在宅医療サポート研修会	R4	R5	R6	R7																															
参加数(人)	67	67	67	67																															
在宅ケア講習会	R4	R5	R6	R7																															
開催数(回)	5	8	9	8(2月末)																															
参加数(人)	81	258	247	262(2月末)																															

## 次期計画に向けた課題整理

### (現状)

※前回ニーズ調査はR4実施

- ・自宅での暮らしを望む人が多い一方で、在宅での療養には4割近くの方が不安  
介護や支援を受けて生活したい場所が自宅：前回 68.0%→67.6% (-0.4pt) [ニーズ調査 P.43]  
人生の最期を迎えたい場所が自宅：前回 57.4%→55.4% (-2.0pt) [ニーズ調査 P.47]  
在宅での療養に不安を感じる人の割合：前回 55.4%→38.4% (-17.0pt) [ニーズ調査 P.46]
- ・在宅療養で不安に思う内容については「病状急変時の対応」「家族がどう考えるか」が上昇  
家族への負担：前回 71.6%→68.8% (-2.8pt) [ニーズ調査 P.46]  
金銭面の負担：前回 48.8%→45.7% (-3.1pt)  
病状急変時の対応：前回 38.7%→40.9% (+2.2pt)  
家族がどう考えるか：前回 27.8%→28.9% (+1.1pt)
- ・エンディングノートを書いたことがある方は1割 [ニーズ調査 P.47]  
書いたことがある 10.3%、持っているが書いたことはない 13.3%、持っていない 60.0%
- ・人生会議(ACP)の認知度は5%、聞いたことがあるは2割強 [ニーズ調査 P.48]  
知っている：前回 2.0%→5.5% (+3.5pt)  
聞いたことはあるが、よく知らない：前回 21.1%→19.8% (-1.3pt)  
知らない：前回 76.9%→74.8% (-2.1pt)
- ・人生の最終段階に備えてどのような医療・ケアを受けたいかを話し合っている方は約2割  
家族や医療・介護関係者等と共有している：4.8% [ニーズ調査 P.48]  
家族等と話し合ったことがある：15.7%  
話し合う必要性は感じているが、何を話し合っよいかわからない：15.7%  
まだ早いと考えている：35.1%  
自分で考えたことはあるが、話し合ったことはない：21.9%

### (課題)

- ・多職種連携について、顔の見える関係作りは進んでいるが、職種によって、地域における関係の成熟度にばらつきが生じており、連携課題の検討や共有する場を設けていくことが必要
- ・在宅医療・介護の連携支援体制について、国の方針として定められている医療・介護の4つの共通場面である「入退院支援・日常の療養支援・急変時の対応・看取り」の取組の推進が必要
- ・入退院の情報連携について、医療側と介護側の認識のすり合わせを行うことが必要
- ・人生会議(ACP)の名称・主旨が十分に浸透しておらず、本人の意向を家族等と共有できている高齢者も少ないことから、様々な機会を捉えて人生会議(ACP)の普及啓発を進めていくことが必要

## すまいるオアシスプラン 2024 の進捗状況

## 介護サービス

### (現在の地域包括ケアビジョン)

2025 年 将来ビジョン (目指す将来像)	市内全域で、介護ニーズに対応できる在宅・施設それぞれのサービス提供体制が整っているとともに、介護人材が質・量ともに確保され、本人や家族が快適にサービスを受けることができる。
------------------------------	--

### (すまいるオアシスプラン 2024)

#### 基本目標 2 介護サービスの提供体制の充実

#### 施策の方向

- 介護サービスの整備及び地域拠点化の推進  
(重点項目)・介護サービス基盤の整備促進  
・地域包括支援センターの機能強化と地域共生社会の実現に向けた取組
- 介護人材の確保及びサービス内容の充実  
(重点項目)・介護人材確保・離職防止  
・ICT活用やDX推進によるサービス提供体制支援

成果 指標	① 地域密着型介護サービス等の整備数					
		基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
	認知症対応型共同生活介護	55ユニット	57ユニット	57ユニット	60ユニット	63ユニット
	小規模多機能型居宅介護	31 箇所	30 箇所	28 箇所	28 箇所	30 箇所
	看護小規模多機能型居宅介護	9 箇所	9 箇所	9 箇所	9 箇所	12 箇所
	特定施設入居者生活介護	372 床	372 床	376 床	406 床	426 床
成果 指標	② 地域包括支援センターへの相談件数 (実人数、延べ件数)					
		基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		7,106 人 31,520 件	7,659 人 29,349 件	9,078 人 29,404 件	7,124 人 22,457 件(12 月末)	8,800 人 35,200 件
	③ 介護職員の職場環境の向上に取り組んでいる事業所割合 (介護職員処遇改善加算取得率)					
		基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
	81.9%	83.4%	89.1%	91.4%(12 月末)	85.0%	
主な 取組	④ 年度中にケアプラン点検を実施した居宅介護支援事業所の割合					
		基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		13.9%	17.7%	19.2%	20.3%	16.7%
	・地域密着型サービス等の運営事業者を公募し、事業候補者を選定					
			整備目標	R6 選定数	R7 選定数	
	認知症対応型共同生活介護 (ユニット数)	6	3	3		
	小規模多機能型居宅介護 (箇所数)	1	0	1		
	看護小規模多機能型居宅介護 (箇所数)	2	0	1		
	特定施設入居者生活介護 (床数)	54	10	44		
・外国人介護職員の離職を防止するため「外国人介護職員の集い」を開催						
	外国人介護職員の集い	R4	R5	R6	R7	
	開催数 (回)	2	2	2	2	
	参加数 (人)	28	28	29	33	
・「地域包括支援センター相談機能強化事業」として市福祉総合相談室アウトリーチ支援員と地域包括支援センターが協働し、複合課題を抱える家庭を支援						

## 次期計画に向けた課題整理

### (現状)

※前回ニーズ調査は R4 実施

- 要介護認定率は上昇傾向、特に要支援の認定率が上昇  
全体認定率 : 18.1%(R4)→19.2%(R7.9月) (+1.1pt)  
要介護 3~5 : 7.0%(R4)→6.7%(R7.9月) (-0.3pt)  
要介護 1・2 : 6.5%(R4)→6.8%(R7.9月) (+0.3pt)  
要支援 1・2 : 4.5%(R4)→5.6%(R7.9月) (+1.1pt)
- 85 歳以上人口は増加の見込み : 13,944 人(R2)→14,423 人(R7)→18,223 人(R17) [住基推計]
- 地域に足りない・欲しい介護保険サービス種類は在宅サービスのニーズあり [ニーズ調査 P. 38]  
訪問系 14.7%、通所系 12.4%、入所系 14.1%、特になし 26.6%、わからない 49.3%
- 既存介護施設等の老朽化が進み、大規模改修の時期に来ている
- 事業所の人材不足感は訪問介護員の不足感が高く、次に介護職員が高い  
[介護労働実態調査福井県版]  
訪問介護員 : 75.1%(R4)→83.4%(R6) (+8.3pt)  
介護職員 : 54.7%(R4)→60.5%(R6) (+5.8pt)  
看護職員 : 43.2%(R4)→36.8%(R6) (-6.4pt)  
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等 : 26.3%(R4)→35.0%(R6) (+8.7pt)  
介護支援専門員 : 31.0%(R4)→21.6%(R6) (-9.4pt)
- 介護人材の外国人雇用に至っている事業所は増加 [介護労働実態調査福井県版]  
外国人労働者受け入れ状況 : 10.2%(R4)→29.3%(R6) (+19.1pt)  
今後受け入れを検討してみたい : 19.5%(R6)
- 地域包括支援センター認知度は増加 : 前回 44.2%→51.6% (+7.4pt) [ニーズ調査 P. 45]
- 地域包括支援センターへの相談人数も増加 : 実人数 7,106 人(R4)→9,078 人(R6) (+1,972 人)

### (課題)

- 高齢者の実情やニーズに合わせて、既存施設の改修や防災減災対策を進めながら介護サービス基盤の維持・確保していくことが必要
- 介護職員は慢性的な人材不足が続いており、県と連携して介護人材確保や職場環境改善の取組をより進めていく必要がある。また、人材確保策として、外国人人材の活用促進が重要であり、外国人職員への課題や懸念を解消し、雇用促進や離職防止に繋げることが必要
- 介護支援専門員が横ばい・減少傾向にあることから、人材確保や負担軽減に向けた取組が必要
- 県と連携し、介護現場における生産性向上や事業者間の協働化による職場環境改善の推進が必要
- 地域包括支援センターへの相談人数は年々増加し、相談内容も多岐に渡っているため、体制整備や業務負担軽減の取組が必要

## すまいるオアシスプラン 2024 の進捗状況

## 高齢者の住まい

### (現在の地域包括ケアビジョン)

2025年 将来ビジョン (目指す将来像)	要介護状態になっても、自宅で安心して生活ができる住環境が整備されている。 高齢者の状態や経済的負担など、本人の状況に合わせた住まいが選択できるよう、必要な住居が確保されている。
-----------------------------	---

### (すまいるオアシスプラン2024)

#### 基本目標3 高齢者の住まいの確保

#### 施策の方向

- 1 自宅で安心して生活ができる環境の整備  
(重点項目)・高齢者の生活に配慮した住宅整備の促進
- 2 多様な住まいの提供  
(重点項目)・低所得高齢者等に対する住まいの確保

成果 指標	① 自宅に「既に高齢者に配慮した設備がある」と答えた割合																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準 R4</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 実績</th> <th>R7 実績</th> <th>目標 R8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.4%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>74.4%</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(トイレ洋式化・屋外段差解消等を除く)</p>	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8	71.4%	-	-	74.4%	75.0%															
基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8																						
71.4%	-	-	74.4%	75.0%																						
成果 指標	② 高齢者人口に対する高齢者向け住宅の割合																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準 R4</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 実績</th> <th>R7 実績</th> <th>目標 R8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.0%</td> <td>2.1%</td> <td>2.2%</td> <td>2.2%</td> <td>2.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・高齢者向け住宅の整備床数/高齢者人口</p>	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8	2.0%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%															
基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8																						
2.0%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%																						
主な 取組	・高齢者が住宅改修やバリアフリー改修の費用を支援																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>各住宅改修にかかる申請件数(件)</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住宅改修(介護保険適用)</td> <td>566</td> <td>587</td> <td>546</td> <td>409(12月末)</td> </tr> <tr> <td>住まい環境整備支援事業(介護保険適用外)</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>重度身体障がい者住宅改修助成事業(障がい者支援)</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>7(12月末)</td> </tr> <tr> <td>バリアフリーに伴う固定資産税軽減</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0(12月末)</td> </tr> </tbody> </table>	各住宅改修にかかる申請件数(件)	R4	R5	R6	R7	住宅改修(介護保険適用)	566	587	546	409(12月末)	住まい環境整備支援事業(介護保険適用外)	3	5	3	3	重度身体障がい者住宅改修助成事業(障がい者支援)	13	10	8	7(12月末)	バリアフリーに伴う固定資産税軽減	4	2	2	0(12月末)
	各住宅改修にかかる申請件数(件)	R4	R5	R6	R7																					
	住宅改修(介護保険適用)	566	587	546	409(12月末)																					
	住まい環境整備支援事業(介護保険適用外)	3	5	3	3																					
	重度身体障がい者住宅改修助成事業(障がい者支援)	13	10	8	7(12月末)																					
	バリアフリーに伴う固定資産税軽減	4	2	2	0(12月末)																					
	・サービス付き高齢者向け住宅の登録や有料老人ホームの新規届出において、適切な運営管理業務や医療・介護サービスとの連携等を助言																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>高齢者向け住宅 整備床数</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サービス付き高齢者向け住宅(戸)</td> <td>873</td> <td>874</td> <td>874</td> <td>845</td> </tr> <tr> <td>有料老人ホーム(床)</td> <td>197</td> <td>261</td> <td>311</td> <td>354</td> </tr> <tr> <td>軽費老人ホーム(床)</td> <td>434</td> <td>434</td> <td>434</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>シルバーハウジング(戸)</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	高齢者向け住宅 整備床数	R4	R5	R6	R7	サービス付き高齢者向け住宅(戸)	873	874	874	845	有料老人ホーム(床)	197	261	311	354	軽費老人ホーム(床)	434	434	434	434	シルバーハウジング(戸)	26	26	26	26
	高齢者向け住宅 整備床数	R4	R5	R6	R7																					
サービス付き高齢者向け住宅(戸)	873	874	874	845																						
有料老人ホーム(床)	197	261	311	354																						
軽費老人ホーム(床)	434	434	434	434																						
シルバーハウジング(戸)	26	26	26	26																						
・セーフティネット住宅の登録や居住サポート住宅の認定、監督に取り組むとともに、福祉相談窓口やホームページ等で住宅セーフティネット制度を周知																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>住宅確保要配慮者向け住宅</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セーフティネット住宅(戸)</td> <td>1,425</td> <td>1,529</td> <td>1,607</td> <td>1,615</td> </tr> <tr> <td>居住サポート住宅(戸)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	住宅確保要配慮者向け住宅	R4	R5	R6	R7	セーフティネット住宅(戸)	1,425	1,529	1,607	1,615	居住サポート住宅(戸)	-	-	-	10											
住宅確保要配慮者向け住宅	R4	R5	R6	R7																						
セーフティネット住宅(戸)	1,425	1,529	1,607	1,615																						
居住サポート住宅(戸)	-	-	-	10																						
・「住まいの総合相談窓口」として市福祉総合相談室に住まいの相談支援員を配置し、住まいの確保に課題を抱えた方への入居支援や、入居後の地域定着に向けた支援を実施																										

## 次期計画に向けた課題整理

### (現状)

※前回ニーズ調査はR4実施

- ・現在の住まいや地域で暮らし続けたい割合が8割と高い  
現在の住まいに住み続けたい : 前回 77.9%→80.4% (+2.5pt) [ニーズ調査 P.41]  
今住まいの地域で暮らし続けたい : 前回 79.9%→80.0% (+0.1pt) [ニーズ調査 P.44]
- ・高齢者独居世帯が増加 : 16,937世帯 15.9%(R4)→18,258世帯 16.7%(R6) (+0.8pt)
- ・住宅に何らかの高齢者に配慮した設備がある人の割合は上昇しているが、設備の個別状況をみるとトイレ洋式化以外はそれぞれ半数以下 [ニーズ調査 P.39]
  - トイレの洋式便器化 : 前回 89.5%→90.9% (+1.4pt)
  - トイレ・浴室・玄関等への手すりの設置 : 前回 49.4%→48.9% (-0.5pt)
  - ドアノブや蛇口のレバーハンドル化 : 前回 42.3%→41.4% (-0.9pt)
  - 浴室の高齢化対応(またぎやすい浴槽や滑りにくい床) : 前回 37.6%→36.2% (-1.4pt)
  - 住宅内の段差の解消 : 前回 35.8%→36.1% (+0.3pt)
  - 和室の洋室化(フローリング化など) : 前回 28.9%→29.7% (+0.8pt)
  - ドアの引き戸への変更 : 前回 28.6%→28.7% (+0.1pt)
  - 車椅子の対応(廊下幅や洗面台高さ調節など) : 前回 19.3%→20.4% (+1.1pt)
  - ホームエレベータの設置 : 前回 4.6%→4.3% (-0.3pt)
  - 屋外の玄関まわり・出入口等の段差解消や手すり設置 : 前回項目無→18.3%
- ・高齢者向け住宅は、特に有料老人ホームの整備が進む  
サ高住 : 29棟 873戸(R4)→27棟 845戸(R7)、有料老人ホーム : 4棟 197床(R4)→9棟 354床(R7)  
軽費老人ホーム : 9棟 434床(R7)→434床(R7)、シルバーハウジング : 1棟 26戸(R4)→26戸(R7)
- ・高齢者向け住宅から居所変更率(死亡を除く)は約7割 [居所変更実態調査 P.5・17]  
サ高住から変更 68.4%、有料老人ホームから変更 77.6%  
(居所変更の理由) 医療的ケア 69.2%、身体介護 31.9%、認知症 19.8%
- ・65歳以降に賃貸住宅の入居・契約更新を断られた割合は約5% [ニーズ調査 P.37・38]  
断られたことがある : 0.9% ※住まいが持家以外と回答した方のみ集計 : 5.2%  
(入居等を断られた理由) 高齢 58.8%、連帯保証人がいない 41.2%、身元引受人がいない 23.5%

### (課題)

- ・住み慣れた住まいで安心して生活し続けるために、バリアフリー等の住宅改修の支援が必要
- ・現在の住まいに住み続けたい高齢者や増加が見込まれる独居高齢者が、現在の暮らしを続けることができるよう、ニーズに応じた生活支援や見守り体制が必要(詳細は基本目標5)
- ・高齢者向け住宅で安心して住み続けるために、入居時の適切な選択を行うための情報提供や、協力医療機関や介護サービスとの連携など、高齢者向け住宅の質の向上が必要
- ・居宅での生活が難しい方や頼れる身寄りがない高齢者でも、経済状況や生活支援のニーズに応じて住まいを選択できるよう、多様な高齢者向け住宅の提供や居住支援を推進することが必要

すまいるオアシスプラン 2024 の進捗状況

介護予防

(現在の地域包括ケアビジョン)

2025年 将来ビジョン (目指す将来像)	元気な高齢者は、支援が必要な高齢者へのボランティア活動等に積極的に参画し、社会の支え手として充実した高齢期を迎えることができている。 多くの高齢者が介護予防活動に主体的に参加し、日常的かつ長期的な取組が普及し、健康寿命の延伸につながっている。
-----------------------------	--

(すまいるオアシスプラン2024)

基本目標4 効果的な介護予防の推進

- 施策の方向
- 1 社会参加の推進  
(重点項目)・地域活動の活性化
  - 2 介護予防の推進  
(重点項目)・地域の介護予防拠点の拡大及び充実

成果指標	① 生きがい支援事業参加者数	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		16,213人	15,001人	17,601人	各地区調査中	34,000人
成果指標	② いきいき長寿よろず茶屋設置数	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		41箇所	42箇所	45箇所	46箇所	50箇所
主な取組	・生きがい支援事業として、地区敬老会や軽スポーツ活動、健康講座など地域活動を支援 ・老人クラブと連携してeスポーツやカラオケ、軽スポーツの大会を実施 ・いきいき長寿よろず茶屋や多機能よろず茶屋「ささえあいの家」の新規立ち上げを支援					
	いきいき長寿よろず茶屋	R4	R5	R6	R7	
	よろず茶屋 設置数(箇所)	41	42	45	46	
	(ささえあいの家 設置数)	(5)	(6)	(7)	(8)	
	よろず茶屋 延べ参加数(人)	45,770	52,326	55,626	-	
	・市内49地区(51地域)において、月5回以上自治会型デイホームを開催					
	自治会型デイホーム事業	R4	R5	R6	R7	
	開催会場数(箇所)	456	467	517	446(12月末)	
	開催数(回)	3,577	3,678	3,753	2,917(12月末)	
	延べ参加数(人)	47,952	55,322	58,559	46,413(12月末)	
・リハビリ専門職等による自主グループの立ち上げ支援や継続支援、体験教室の実施						
いきいき百歳体操自主グループ	R4	R5	R6	R7		
いきいき元気サポーター養成講座 参加数(人)	14	25	23	12(12月末)		
自主グループ数(箇所)	24	27	30	30(12月末)		
自主グループ継続支援(箇所)	2	2	5	3(12月末)		
・歯科口腔指導無料受診券を送付し、歯科医による歯科健診と口腔機能の評価・指導を実施						
口腔機能向上サービス事業	R4	R5	R6	R7		
受診者数(人)	948	1,036	1,649	670(12月末)		

次期計画に向けた課題整理

(現状)

※前回ニーズ調査はR4実施

- 健康で過ごすための取組は全体的に上昇し、健康意識が高まっている [ニーズ調査 P.15]  
 体を動かす : 前回 73.7%→76.1% (+2.4pt)、  
 栄養バランスを考えた食事 : 前回 38.3%→39.7% (+1.4pt)、  
 趣味活動 : 前回 32.8%→34.9% (+2.1pt)
- かかりつけの有無は、かかりつけ医、歯科医、薬局いずれも上昇 [ニーズ調査 P.11・14]  
 かかりつけ医 : 前回 90.8%→91.3% (+0.5pt) ※医療機関が特に決まっていなかった方を差引  
 かかりつけ歯科医 : 前回 78.8%→80.9% (+2.1pt)  
 かかりつけ薬局 : 前回 62.0%→68.4% (+6.4pt)
- 定期的な歯科受診の割合が上昇 : 前回 43.8%→49.9% (+6.1pt) [ニーズ調査 P.11]
- フレイルの認知度は約3割 [ニーズ調査 P.16]  
 知っている 31.6%、聞いたことはあるがよく知らない 24.8%、知らない 43.6%
- 社会参加は仕事、趣味、スポーツ、ボランティアの順で多い [ニーズ調査 P.25]  
 収入のある仕事 : 前回 33.4%→30.4% (-3.0pt) ※週4回以上～月1-3回の合計値  
 趣味関係のグループ : 前回 22.1%→23.1% (+1.0pt)  
 スポーツのグループ : 前回 20.5%→21.5% (+1.0pt)  
 ボランティアグループ : 前回 10.1%→10.3% (+0.2pt)
- 地域の集いの場の参加は1割強に留まり、参加したいと思わない方が約6割  
 集いの場に参加している : 前回 11.5%→13.4% (+1.9pt) [ニーズ調査 P.27・28]  
 参加したいが、していない : 前回 29.2%→26.9% (-2.3pt)  
 参加したいと思わない : 前回 59.3%→59.7% (+0.4pt)  
 (参加しない理由) 他にやるべきことがあって忙しい : 前回 48.6%→47.3% (-1.3pt)  
 一人でゆっくりしたい : 前回 35.9%→39.4% (+3.5pt)  
 一人では行きづらい : 前回 18.2%→21.4% (+3.2pt)  
 やりたいことをしていない : 前回 14.2%→13.1% (-1.1pt)
- 市に望む生きがいづくりの支援は、気軽に集える場所づくりが最も多い [ニーズ調査 P.24]  
 気軽に集える場所をつくる : 前回 43.5%→46.1% (+2.6pt)  
 趣味活動を行う機会や場所をつくる : 前回 37.2%→40.7% (+3.6pt)  
 仕事をする場をつくる : 前回 24.0%→24.3% (+0.3pt)

(課題)

- 高齢者の健康志向や社会参加意識の高まっている機会を捉え、高齢期の就労や趣味、地域活動など多様なニーズに合わせた社会参加の機会を拡大が必要
- 定期的な歯科受診割合は増加したものの依然として約5割にとどまっている。フレイル予防に不可欠な口腔機能低下の早期発見・予防の観点から、定期受診のさらなる促進が必要
- フレイルを知っている方が約3割にとどまり、予防行動に繋がる情報発信の強化が課題
- 健康意識の高い高齢者に限らず、高齢者が主体的に通いの場に誘い合う仕組みの構築が必要
- 通いの場や自主グループにおける担い手や後継者の育成や支援が必要
- 総合事業について慢性的な人材不足が続き、喫緊の課題となっている。

すまいるオアシスプラン 2024 の進捗状況

生活支援

(現在の地域包括ケアビジョン)

2025 年 将来ビジョン (目指す将来像)	介護サービス事業者や地域住民によるボランティア活動など多様な主体により、適切な生活支援が切れ目なく提供されている。 地域から孤立しがちな高齢者を見守り、支援するための仕組みが構築されており、すべての高齢者が安心して生活できている。
------------------------------	--

(すまいるオアシスプラン2024)

基本目標5 高齢者を支える生活支援体制の構築

- 施策の方向
- 1 日常的な家事等の支援体制の充実  
(重点項目)・生活支援コーディネーターの設置
  - 2 地域の見守り体制の充実  
(重点項目)・高齢者虐待防止の推進

成果指標	① ささえあいの家で登録している介護サポーター数	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		63人	61人	67人	78人	90人
成果指標	② 福井市あんしん見守りネットワーク協力事業者数	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		65 事業者	65 事業者	65 事業者	67 事業者	70 事業者
主な取組	・第1層生活支援コーディネーター3名、第2層生活支援コーディネーター45名を設置					
	・地域ささえあい研修を開催し、生活支援を行う介護サポーターへの登録を呼びかけ					
		生活支援型介護サポーター	R4	R5	R6	R7
		生活支援活動グループ数(3人以上)(件)	24	28	33	34(12月末)
		サポーター登録者数(人)	187	229	273	276(12月末)
	・ひとり暮らし高齢者等を対象に、買い物や掃除等のサービスを援助する「えがおでサポート事業」や民生委員が対象把握や協力者を紹介する「地域ぐるみ雪下ろし支援事業」を実施					
			R4	R5	R6	R7
		えがおでサポート事業 登録者数(人)	405	412	442	452(12月末)
		地域ぐるみ雪下ろし支援 登録者数(人)	1,548	1,471	1,444	1,252(12月末)
	・ひとり暮らし等高齢者登録者へ民生委員や包括支援センター等が見守りを実施するとともに、緊急通報装置や見守り ICT 機器を設置——					
		R4	R5	R6	R7	
	ひとり暮らし等高齢者登録者数(人)	4,133	4,064	3,996	3,922(12月末)	
	緊急通報装置・携帯電話短縮 登録数(件)	765	689	662	646(12月末)	
	見守り ICT 機器 設置数(件)	-	-	11	19(12月末)	
・高齢者虐待の未然防止・早期発見や対応力向上の体制強化に努めるため、高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会や虐待防止研修会を開催						
		R4	R5	R6	R7	
	養護者による虐待通報件数(件)	93	101	93	62(12月末)	

次期計画に向けた課題整理

(現状)

※前回ニーズ調査は R4 実施

- ・高齢者独居世帯が増加：16,937世帯 15.9%(R4)→18,258世帯 16.7%(R6) (+0.8pt)
- ・日中に1人きりになる割合も上昇：前回 75.7%→79.5% (+3.8pt) [ニーズ調査 P.4]
- ・住み慣れた地域で暮らすために地域で求められる支援は、緊急通報装置等の整備が最も多い  
緊急通報装置等安否表示できる体制整備：前回 41.8%→45.8% (+4.0pt) [ニーズ調査 P.34]  
民生委員、自治会などの声かけ、見守り：前回 44.7%→44.8% (+0.1pt)  
地域での助け合い：前回 46.5%→44.6% (-1.9pt)  
包括支援センターや行政による定期訪問：前回 32.5%→38.3% (+5.8pt)  
配食サービスの支援：前回 35.0%→33.7% (-1.3pt)
- ・普段の隣近所との交流はさらに希薄になりつつある [ニーズ調査 P.30]  
困りごとを相談し合える：前回 13.0%→11.0% (-2.0pt)  
簡単な頼みごとができる：前回 23.7%→24.4% (+0.7pt)  
顔を合わせたときに挨拶をする：前回 79.2%→78.6% (-0.6pt)  
ほとんど顔も知らない：前回 3.8%→4.4% (+0.6pt)
- ・日常生活で求める支援は雪かきや簡単な修繕、公共交通の充実の順に多い [ニーズ調査 P.23]  
雪下ろし・雪かき：前回 63.2%→66.9% (+3.7pt)  
簡単な修繕：前回 25.8%→28.8% (+3.0pt)  
公共交通の充実：前回 17.1%→20.6% (+3.5pt)  
外出時の送迎：前回 22.5%→19.8% (-2.7pt)  
掃除：前回 20.4%→19.6% (-0.8pt)  
通院：前回 18.0%→18.6% (+0.6pt)
- ・バスや電車を利用しない理由は外出することがないが最も多く、引きこもりの懸念  
外出することがない：前回 31.3%→31.3% (±0pt) [ニーズ調査 P.18]  
バスや電車の本数が少ない：前回 23.7%→24.2% (+0.5pt)  
バス停や駅が近所がない：前回 18.6%→18.6% (±0pt)

(課題)

- ・第2層の生活支援コーディネーターを設置したが、活動内容・スキルの差や地域団体との関係構築にばらつきを解消する取組が必要
- ・地域によっては生活支援活動を担う団体が固定化・高齢化しているため、新たな担い手の掘り起こしや世代交代を図っていくことが必要
- ・買い物同行や移動支援等の生活支援に関して、地域で支えあう体制を構築することが必要
- ・ひとり暮らし等高齢者の増加や詐欺被害への不安の高まりを背景に、支援が必要な高齢者を見逃すことがないように実態把握を進め、高齢者の安全確保や見守り体制の強化が課題
- ・増加が見込まれる身寄りのない高齢者や判断能力が不十分な高齢者の自立した生活を支える体制を充実させていく必要

# すまいるオアシスプラン 2024 の進捗状況

## 認知症

### (現在の地域包括ケアビジョン)

2025 年 将来ビジョン (目指す将来像)	子どもから高齢者まで幅広い世代に、若年性認知症を含めた認知症の正しい理解が浸透し、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができている。 認知症を初期の段階で発見し、進行の抑制を図るため、気軽に相談したり受診できる体制と容態にあった医療・介護・福祉などのケアを適切に提供できる体制が整備されている。
------------------------------	---

### (すまいるオアシスプラン2024)

#### 基本目標6 認知症の人を支える体制の構築

#### 施策の方向

- 若年性認知症を含む認知症への理解を深める普及・啓発  
(重点項目)・幅広い世代への正しい知識の普及
- 認知症の人と介護者を支援するやさしい地域づくり  
(重点項目)・認知症の人と家族の居場所づくり
- 早期診断・早期対応の推進と認知症の発症予防・進行抑制  
(重点項目)・早期発見から早期対応につなげる体制の整備

成果 指標	① 認知症サポーター数	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		46,396 人	48,983 人	51,677 人	54,486 人(12 月末)	60,000 人
	・認知症サポーターの養成人数(累計)					
成果 指標	② チームオレンジの設置数	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8
		0 チーム	1 チーム	2 チーム	3 チーム	9 チーム
	③ あたまの元気度調査(一次チェック)実施者数					
	基準 R4	R5 実績	R6 実績	R7 実績	目標 R8	
	5,091 人/年	5,125 人	4,740 人	6,901 人(12 月末)	7,000 人/年	
主な 取組	・小中学生・高校生、企業職場等で認知症サポーター養成講座を開催					
	認知症サポーター養成講座	R4	R5	R6	R7	
	実施数(回)	61	77	87	66(12 月末)	
	養成人数(人)	2,144	2,587	2,694	2,809(12 月末)	
	・9月の認知症月間に合わせ「オレンジハートフォトコンテスト」やZ世代クリエイターによるワークショップ、福井駅周辺恐竜モニュメントオレンジライトアップ等を実施					
	・介護事業所や医療機関等と協力し、市内6箇所「オレンジカフェ」を開催					
	オレンジカフェ	R4	R5	R6	R7	
	設置数(箇所)	4	4	5	6	
	参加延べ人数(人)	416	801	922	848(12 月末)	
	・つどいの場や医療機関、歯科医院、薬局等であたまの元気度調査を実施					
あたまの元気度調査・検診受診	R4	R5	R6	R7		
一次検診 実施者数(件)	5,091	5,125	4,740	6,901(12 月末)		
二次検診 該当者数(件)	1,331 (26.1%)	1,270 (24.8%)	1,124 (23.7%)	1,772(12 月末) (25.7%)		
二次検診 受診者数(件)	251 (18.9%)	283 (22.3%)	259 (23.0%)	258(12 月末) (14.6%)		

# 次期計画に向けた課題整理

### (現状)

※ニーズ調査前回は R4、前々回は R1 実施

- 認知症に対するイメージでは、地域で生活できるイメージが低下 [ニーズ調査 P.50]  
自ら工夫して補いながら地域で自立的に生活できる : 前々回 14.4%→10.2% (-4.2pt)  
医療・介護等のサポートを利用しながら地域で生活できる : 前々回 28.2%→23.7% (-4.5pt)  
身の回りのことができなくなり、施設に入る必要がある : 前々回 36.8%→43.0% (+6.2pt)  
迷惑をかけてしまうので地域で生活することが難しくなる : 前々回 7.6%→9.2% (+1.6pt)  
認知症の症状が進行し、何もできなくなってしまう : 前々回 13.0%→13.9% (+0.9pt)
- 認知症になった場合の暮らし方では、施設で暮らしたいが上昇 [ニーズ調査 P.51]  
自ら工夫して補いながら地域で自立的に生活していきたい : 前々回 19.5%→12.8% (-6.7pt)  
医療・介護等のサポートを利用しながら地域で生活したい : 前々回 35.3%→32.4% (-2.9pt)  
身の回りのことができなくなるので施設で暮らしたい : 前々回 20.6%→22.7% (+2.1pt)  
迷惑をかけてしまうので施設で暮らしたい : 前々回 21.9%→28.2% (+6.3pt)  
誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしたい : 前々回 2.7%→3.9% (+1.2pt)
- 認知症のある人からは「人と話せる場があると安心できる」「役割があることで前向きになれる」「地域とのつながりが支えになる」「最初に違和感に気づくのは本人」といった声が多い
- 一方、家族からは「認知症への理解が地域に十分に広がっていない」「介護の大変さが分かってもらえない」「誰に相談すればよいのか分からず不安になる」といった声があった
- 認知症の相談窓口知名度は3割弱 : 前回 24.8%→26.5% (+1.7pt) [ニーズ調査 P.51]
- 認知症対策として望むことは、早期発見のための診断の充実、相談窓口の充実の順に多い  
早期発見のための診断の充実 : 前回 50.5%→51.0% (+0.5pt) [ニーズ調査 P.53]  
相談窓口の充実 : 前回 43.3%→40.4% (-2.9pt)  
介護サービスの充実 : 前回 31.9%→37.5% (+5.6pt)  
認知症予防の教室の開催 : 前回 23.1%→22.7% (-0.4pt)  
本人や家族が気軽に集える場所を作る : 前回 22.6%→22.0% (-0.6pt)
- 成年後見制度の知名度は約4割 : 前々回 34.0%→42.1% (+8.1pt) [ニーズ調査 P.53]
- 成年後見制度を利用したい割合が上昇 : 前々回 39.5%→46.7% (+7.2pt) [ニーズ調査 P.54]

### (課題)

- 地域の理解が認知症のある人の暮らしや家族の負担に大きく影響していることから、認知症を「できなくなる病気」として捉えるのではなく、「認知症になってもその人らしく暮らし続けることができる」という「新しい認知症観」を地域全体に広げていくことが必要
- 認知症のある人が安心して集い、社会参加できる地域の場を広げ、認知症のある人が地域の一員として役割を持ち、安心して暮らしながら参加できる地域づくりを進めていくことが必要
- 本人や家族の認知症への不安や違和感を早期発見・早期対応へつなげるため、医療機関や地域の場、相談窓口など複数の入口から支援につながる仕組みを整備し、状態や状況の変化に応じた切れ目のない体制を構築することが必要

#### 「新しい認知症観」とは・・・

認知症を「できなくなる病気」と捉えるのではなく、認知症になってもその人の本質は変わらず、やりたいことやできることがあり、必要な配慮や周囲の理解があれば、役割やつながりを持ちながら地域で暮らし続けられるという考え方をいう。

すまいるオアシスプラン2027 骨子（素案）

基本理念	ビジョン・基本目標	施策の方向	次期計画のポイント（主なもの）
高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会づくり（素案）	<b>ビジョン・基本目標1</b> 在宅医療の充実と在宅医療・介護連携の強化 入退院や急変時には多職種間の円滑な情報共有により切れ目のないケアが提供できている。 在宅での暮らしを望む医療的ニーズのある高齢者が、安心して療養生活が送れるよう、専門多職種による連携体制が構築され、 <b>人生の最終段階まで本人の意思や希望に沿った在宅療養生活を選択し、送ることができている。</b>	1 適切な在宅医療・介護サービスの提供と多職種間の連携の推進 2 在宅療養等に関する普及啓発	○多職種間の連携の推進 ○在宅ケアと人生会議の周知啓発
	<b>ビジョン・基本目標2</b> 介護サービスの提供体制の <b>持続性強化</b> 市内全域で、ニーズに対応できる <b>介護サービスを将来にわたって持続的に提供できる</b> 体制が整っているととも、介護人材が <b>十分に</b> 確保され、本人や家族が <b>最適な</b> サービスを受けることができている。	1 <b>持続的な介護サービス基盤の整備及び地域拠点化の推進</b> 2 介護人材の確保及びサービス内容の充実	○介護サービス基盤の整備と耐災害性の強化 ○介護人材確保・定着促進 ○生産性向上による職場環境改善
	<b>ビジョン・基本目標3</b> 高齢者の住まいの確保 要介護状態になっても、自宅で安心して生活ができる住環境が整備されている。高齢者の状態や経済的負担、 <b>家族状況</b> など、本人の状況に合わせた住まいが選択できるよう、必要な住居が確保されている。	1 自宅で安心して生活ができる環境の整備 2 多様な住まいの提供	○高齢者の生活に配慮した住環境の整備促進 ○高齢者向け住宅等の量の確保と質の向上 ○低所得高齢者等に対する住宅セーフティネットの構築

<参考> すまいるオアシスプラン2024 施策体系

基本理念	ビジョン・基本目標	施策の方向	施策の区分（太枠…重点項目）
高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会づくり	<b>ビジョン・基本目標1</b> 在宅医療の充実と在宅医療・介護連携の強化 入退院時には多職種間の円滑な情報共有により切れ目のないケアが提供できている。 在宅での暮らしを望む医療的ニーズのある高齢者が、安心して療養生活が送れるよう、専門多職種によるサービス提供体制が構築され、本人の希望に沿った在宅療養生活を選択し、送ることができている。	1 適切な在宅医療・介護サービスの提供と多職種間の連携の推進 2 在宅療養等に関する普及啓発	1 多職種間の連携の推進 2 在宅医療・介護連携支援体制の充実 3 専門多職種によるサポート体制の充実 4 居宅療養管理指導等の在宅医療の推進 5 入退院時の円滑な情報共有、連携の強化 6 介護支援専門員等の資質向上 7 在宅医療を支える後方支援体制等の構築 1 在宅ケアと人生会議の周知啓発
	<b>ビジョン・基本目標2</b> 介護サービスの提供体制の充実 市内全域で、介護ニーズに対応できる在宅・施設それぞれのサービス提供体制が整っているととも、介護人材が質・量ともに確保され、本人や家族が快適にサービスを受けることができている。	1 介護サービスの整備及び地域拠点化の推進 2 介護人材の確保及びサービス内容の充実	1 介護サービス基盤の整備促進 2 認知症への対応力強化 3 介護サービス事業所の地域拠点化の推進 4 地域包括支援センターの機能強化と地域共生社会の実現に向けた取組 1 介護人材確保・離職防止 2 ICT活用やDX推進によるサービス提供体制支援 3 家族介護者への支援と利用者負担の軽減 4 介護サービスの質の確保及び適正化 5 ケアマネジャー等への研修機会の充実
	<b>ビジョン・基本目標3</b> 高齢者の住まいの確保 要介護状態になっても、自宅で安心して生活ができる住環境が整備されている。高齢者の状態や経済的負担など、本人の状況に合わせた住まいが選択できるよう、必要な住居が確保されている。	1 自宅で安心して生活ができる環境の整備 2 多様な住まいの提供	1 高齢者の生活に配慮した住宅整備の促進 2 地域の見守り体制の充実 3 生活支援体制の強化 1 高齢者向け住宅等の供給促進 2 高齢者向け住宅の地域拠点化推進 3 既存ストックを活用した高齢者向け住宅の整備促進 4 高齢者向け住宅における介護サービス利用の適正化 5 低所得高齢者等に対する住まいの確保

基本理念	ビジョン・基本目標	施策の方向	次期計画のポイント（主なもの）
高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会づくり（案）	<p>ビジョン・基本目標4</p> <p><b>社会参加と効果的な介護予防の推進</b></p> <p>高齢者が一人ひとりに合った活躍の場に参加し、社会とつながりながら支え手として充実した高齢期を迎えることができる。多くの高齢者が介護予防活動に主体的に参加するなど、日常的かつ長期的な取組が普及し、健康寿命の延伸につながっている。</p>	<p>1 社会参加の<b>拡大</b></p>	○地域活動の活性化
		2 介護予防の推進	○地域の介護予防拠点の拡大及び充実
	<p>ビジョン・基本目標5</p> <p>高齢者を支える生活支援体制の構築</p> <p>介護サービス事業者に加え、地域住民が担い手として参加するなど、多様な主体によって適切な生活支援が切れ目なく提供されている。地域から孤立しがちな高齢者や頼れる身寄りがない高齢者を見守り、支援するための仕組みが構築されており、すべての高齢者が安心して生活できている。</p>	<p>1 日常的な家事等の支援体制の<b>充実</b></p>	○住民主体の生活支援の推進
	2 地域の見守り体制の充実	○市民ぐるみの見守り体制の構築	
	3 <b>自立した生活を支える包括的な相談支援の推進</b>	○地域包括支援センターの地域共生社会の実現に向けた取組 ○権利擁護支援機能の充実	
	<p>ビジョン・基本目標6</p> <p><b>認知症とともに生きる共生社会の実現</b></p> <p>子どもから高齢者まで幅広い世代に、認知症になってもその人らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」が浸透している。認知症のある人が役割や生きがい、人とのつながりを持ちながら、家族や地域とともに安心して暮らし続けることができる。認知症のある人の気づきや意思が尊重され、気軽に相談でき、早期の対応につながることも、状態の変化に応じて医療・介護・福祉などのケアを適切に提供できる体制が整備されている。</p>	<p>1 <b>認知症のある人と育む新しい認知症観の普及と理解促進</b></p>	○幅広い世代への新しい認知症観の普及
	2 <b>認知症のある人が役割とつながりをもって暮らせる地域づくり</b>	○新しい認知症観に基づいた認知症のある人と家族の居場所づくり	
	3 <b>認知症の予防・早期発見・早期対応と切れ目ない支援体制の構築</b>	○予防・早期発見・早期対応に向けた連携体制の整備	

基本理念	ビジョン・基本目標	施策の方向	施策の区分（太枠…重点項目）
高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会づくり	<p>ビジョン・基本目標4</p> <p>効果的な介護予防の推進</p> <p>元気な高齢者は、支援が必要な高齢者へのボランティア活動等に積極的に参加し、社会の支え手として充実した高齢期を迎えることができる。多くの高齢者が介護予防活動に主体的に参加するなど、日常的かつ長期的な取組が普及し、健康寿命の延伸につながっている。</p>	<p>1 社会参加の推進</p>	<p>1 生きがい就労による就労機会の拡大</p> <p>2 シルバー人材センターによる就労機会の拡大</p> <p>3 <b>地域活動の活性化</b></p> <p>4 セカンドライフ形成に向けた支援</p>
		2 介護予防の推進	<p>1 心身機能の低下した高齢者の効果的な把握</p> <p>2 <b>地域の介護予防拠点の拡大及び充実</b></p> <p>3 データ活用による地域特性に応じた介護予防の推進</p> <p>4 多様な介護予防サービスの確保</p> <p>5 適切な介護予防ケアマネジメントの実施</p> <p>6 介護予防活動の評価</p> <p>7 かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局による健康管理の推進</p> <p>8 重症化のリスクを抱えた高齢者に対する個別指導の強化</p>
	<p>ビジョン・基本目標5</p> <p>高齢者を支える生活支援体制の構築</p> <p>介護サービス事業者や地域住民によるボランティア活動など多様な主体により、適切な生活支援が切れ目なく提供されている。地域から孤立しがちな高齢者を見守り、支援するための仕組みが構築されており、すべての高齢者が安心して生活できている。</p>	<p>1 日常的な家事等の支援体制の<b>充実</b></p>	<p>1 介護予防・生活支援サービスの確保</p> <p>2 <b>生活支援コーディネーターの設置</b></p> <p>3 住民主体の生活支援サービスの育成</p> <p>4 介護サポーターグループによる在宅高齢者支援の推進</p> <p>5 ひとり暮らし等高齢者の家事支援の推進</p> <p>6 高齢者の外出支援の推進</p> <p>7 生活支援サービスの情報提供体制の整備</p>
	2 地域の見守り体制の <b>充実</b>	<p>1 ひとり暮らし等高齢者の実態把握</p> <p>2 福祉サービスの適切な提供</p> <p>3 市民ぐるみの見守り体制の構築</p> <p>4 生活支援・見守り分野でのICT活用</p> <p>5 <b>高齢者虐待防止の推進</b></p>	
	<p>ビジョン・基本目標6</p> <p>認知症の人を支える体制の構築</p> <p>子どもから高齢者まで幅広い世代に、若年性認知症を含めた認知症の正しい理解が浸透し、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる。認知症を初期の段階で発見し、進行の抑制を図るため、気軽に相談したり受診できる体制と容態にあった医療・介護・福祉などのケアを適切に提供できる体制が整備されている。</p>	<p>1 若年性認知症を含む認知症への理解を深める普及・啓発</p>	<p>1 幅広い世代への正しい知識の普及</p> <p>2 認知症サポーターの活動支援</p> <p>3 キャラバン・メイトの育成</p> <p>4 若年性認知症の支援体制構築</p>
	2 認知症の人と介護者を支援するやさしい地域づくり	<p>1 認知症の人と家族の居場所づくり</p> <p>2 地域住民や関係機関の主体的活動の推進</p> <p>3 ひとり歩きによる行方不明者が早期に発見・保護される体制づくり</p> <p>4 成年後見制度の利用促進</p>	
	3 早期診断・早期対応の推進と認知症の発症予防・進行抑制	<p>1 早期の相談や受診につながる普及・啓発</p> <p>2 気軽に認知機能低下をチェックできる仕組みづくり</p> <p>3 <b>早期発見から早期対応につなげる体制の整備</b></p> <p>4 医療・介護従事者の認知症対応力の向上</p> <p>5 発症予防と進行抑制に効果的なプログラムの提供</p>	

すまいるオアシスプラン2027 策定スケジュール(予定)  
(福井市 第11次老人保健福祉計画・第10期介護保険事業計画・第4期高齢者居住安定確保計画・第1期認知症施策推進計画)

年月	令和7年度				令和8年度											
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
策 定 計 画	地域包括ケア 推進協議会		第4回(3/26) 推進協議会 ・各検討会からの報告 ・各調査結果(速報) ・計画策定スケジュール ○次期計画の課題整理 ○次期計画骨子(素案)			市長諮問 第1回(6/25) 推進協議会 ・計画概要説明 ・現プランの進捗報告 ・各調査分析報告 (計画審議) ○計画策定の趣旨 ○現状と課題 ○ビジョンと計画体系 ○施策の重点項目	国の方針発表	第2回(8月) 推進協議会 (計画審議) ○前回協議による追加修正 ○具体的な施策と取組		第3回(10月) 推進協議会 ・現プランモニタリング (計画審議) ○前回協議による追加修正 ○具体的な施策と取組 ○介護サービス量見込み ○計画素案(全体)		←委員に対して、素案の意見聴取→	第4回(1月) 推進協議会 (計画審議) ○パブリックコメント結果 ○意見を踏まえた追加修正 ○計画最終案	市長答申	第5回(3月) 推進協議会	
	在宅医療・介護 検討協議会		第2回(2/25) 検討協議会 ・次年度計画 ○次期計画の課題整理			第1回(7月) 検討協議会 ・前年度実績・本年度計画 ○具体的な施策と取組						第2回 検討協議会 ・次年度計画 ○計画素案への意見聴取				
	認知症施策 検討委員会		第2回(2/27) 検討委員会 ・次年度計画 ○次期計画の課題整理			第1回(7月) 検討委員会 ・前年度実績・本年度計画 ○具体的な施策と取組							第2回 検討委員会 ・次年度計画 ○計画素案への意見聴取			
	介護予防・生活支援 サービス検討会議		第2回(3/2) 検討会議 ・次年度計画 ○次期計画の課題整理			第1回(7月) 検討会議 ・前年度実績・本年度計画 ○具体的な施策と取組							第2回 検討会議 ・次年度計画 ○計画素案への意見聴取			
	介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査	データ集計														
	在宅介護実態調査 居所変更実態調査			データ分析												
	パブリック コメント・ 市民意見募集 (第9次総計)	市民・関係者 との意見交換												パブリック コメント実施		
	事務局 その他			事業所整備計画調査・介護サービス量の見込み算定			市長・副市長説明 ・計画骨子案 ・策定スケジュール ・現プランの進捗状況 ・市長諮問				介護保険料の改定 市長・副市長説明 ・計画素案 ・パブリックコメント実施			市長・副市長報告 ・パブリックコメント結果 ・市長答申案		

計  
画  
発  
刊  
・  
公  
表